

日本ホラー小説大賞で「長編賞」を受賞!

本学人間学部心理学科2009年3月卒業の堀井拓馬さんが、「第18回日本ホラー小説大賞」(主催「株式会社角川書店」)で「長編賞」を受賞! 11月25日に東京會館で行われた平成23年度「角川三賞」贈賞式に臨み、関係者とマスコミが満席状態の会場で、喜びの言葉を述べました。



「角川三賞」とは、「山田 説大賞」のことを指し、本風太郎賞」「横溝正史ミス 学OBの堀井拓馬さんが「第18回日本ホラー小説大賞」を受賞した「第18回日本ホラー小説大賞」は、応募総数811編(長編196編、短編615編)という狭き門。5月19日、ホテルニューオー



「読み終えた『なまづま』を電車の中で広げてPRする友人」のエピソードを披露して会場を沸かせる堀井さん

丹精込めた「なまづま」を手に、総数811編(長編196編、短編615編)という狭き門。5月19日、ホテルニューオー

贈呈を受けた堀井さんは、「家族・友人・恩師に恵まれ、愛されている自分を、この上なく幸せだと思っ

す。丹精込めて創った『なまづま』が、一冊の本になるために尽力してくださった全ての方々に心から感謝申し上げます」と挨拶。星新一氏の短編から着想を得て、「死なない生物が増えていく怖さ」を著した堀井さん。文中でのリアルな研究シーンには、自身が

文京学院で学んだ4年間が凝縮されているそうです。「なまづま」は、10月25日に角川書店より既に発行され、現在、次回作も準備中とのこと。作家として歩み始めた堀井拓馬さんは、文京学院の誇りとして、これからも愛され続けることでしょう。

角川書店代表取締役・井上伸一郎氏より賞状と目録